

VIEW

今までの作業が時間内に終わらない！！

12月2日より、現場の声を無視する形で始まった「屋根上作業体制の変更（C担務の一人作業）」ですが、会社は「中間ヒンジのグリスアップ等で屋根上作業が遅れた場合、機能検査の手順を変えて、台車の相互チェックから始める」ことを明らかにしました。

屋根上作業をB担務1名、C担務1名にしたため今までの作業が時間内に終わらないことを前提に考えたことであり、屋根上作業体制の変更は、現場担当者にこれまで以上の負担を強いる内容だったことを会社自らが証明したことになります。

本来、作業量が増え、作業者の負担が増えれば、ミスが増え大きな事故に繋がる危険性も増えます。普通なら作業者の負担が増大したらそれに見合った人数で作業を行うか、作業時間を増やしてゆとりをもった作業が出来るようにしなければなりません。

しかし、会社は、屋根上作業者の負担を是正するどころか、12月2日以降も、管理者を屋根上に上げ、屋根上作業者を監視し続け、作業時間を計り、作業者にプレッシャーをかけることで何とか時間内に終わらせようとしています。

決められた作業手順、ルールはどうなったの？

私たちは、今回の時間内に作業を収めることだけを目的に作業手順や作業ダイヤ、作業マニュアルなど簡単に変えることは「会社のただの面子でしかない」と考えます。

会社は、これまで「決められた作業手順を守れ」「ルールを守れ」「決められたことを守れ」と作業手順や作業マニュアルを絶対重視を押しつけてきました。今回の対応はこれまでの会社の主張と矛盾するものです。そこには、「とりあえず、やらせる！問題があるときに考える」という会社の姿勢があるからです。

私たちは、「ただ時間内に作業を収めようとする作業手順の変更」に反対します。まず、ゆとりある作業と安心して働ける作業体制を整えるべきです。